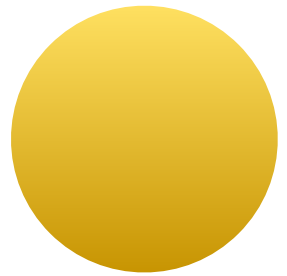


オールド
ローカル



隋 語

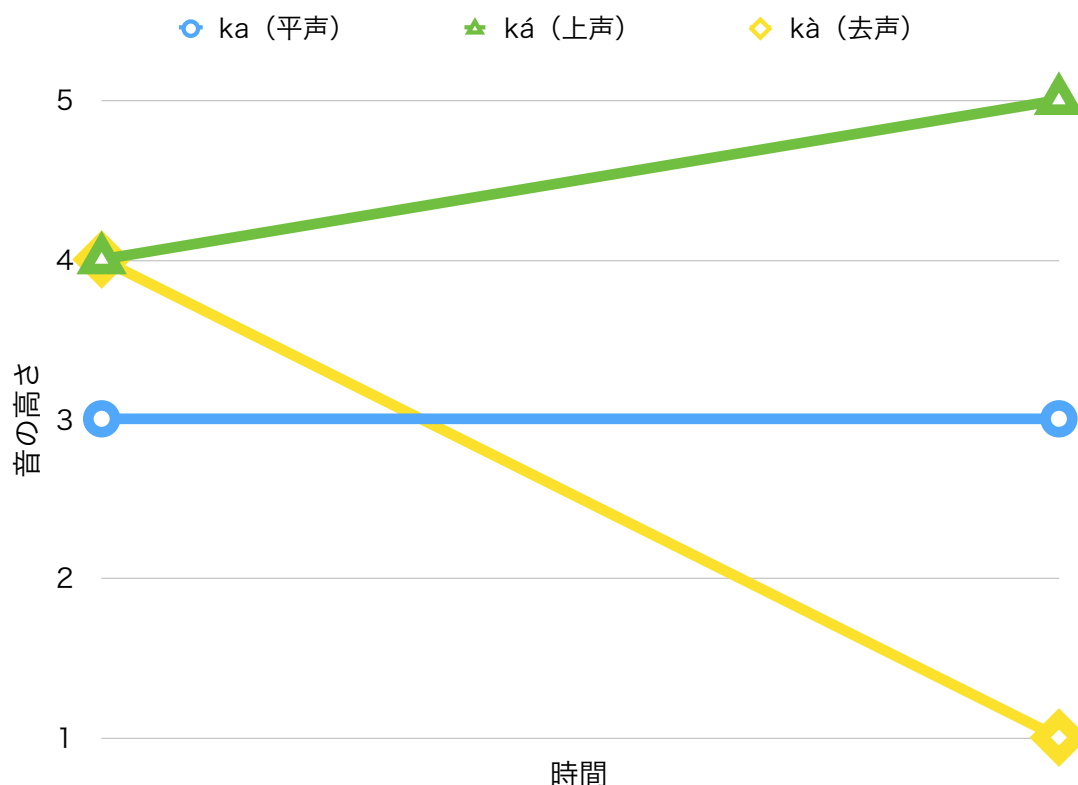
(未完成)

文字と発音

1. 声調

日本語は言葉によってアクセントの位置が決まっていますが、隋語では音節の1つ1つに高低や昇降の調子がついています。これを声調といい、隋語には合わせて3つの声調が存在します。声調が異なるとき、それは違った言葉となりますので、意味としても違ったものとなります。

ここでは、平声の ka, 上声の ká, そして去声の kà を例にとってみます。a の上についている記号はそれぞれの声調を表します。



- ・平声 ka (歌)

中くらいか、少し低めの声でまっすぐ伸ばす。記号はつけない。

- ・上声 ká (良い)

高めの声から更に高く上げる。記号はアキュート (´) をつける。

- ・去声 kà (個)

高い声から一気に下げる。記号はグレーブ (`) をつける。

2. 母音

a e i o u y ə

- a 日本語の「ア」と同じ様に発音する。
- e 「エ」と同じ様に発音する。
- i 「イ」と同じ様に。唇を丸めないこと。
- o 日本語の「オ」よりも唇をしっかりと丸めて発音する。但し、io の時は丸めない。
- u 日本語の「ウ」よりも唇を強く丸めて発音する。
- y 日本語の「イ」で唇を丸めながら発音する。
- ə 唇と舌に力をいれず、「ア」「ウ」「エ」「オ」ともつかない様に発音する。

母音字が連続しているときは、その母音を滑らかに繋げて発音します。

また、以上の母音の前や後ろに、特殊な半母音 r がつくことがあります。これは、舌尖を立てて上顎に近づけることで発音します。

声調記号をつける文字

声調記号は、その音節の中で中核となる「主母音」の上につけます。

母音字が連続しているときの主母音の見分け方は

a, e, o, ə は必ず主母音

iu, ui, yi は前が主母音

yu, yui は 2 番目の u が主母音

3. 子音

唇		齒茎		そり舌			硬口蓋			軟口蓋			声門			
	m		n	nr			ni, ny			ŋ						
p	ph	b	t	th	d	tr	thr	dr	ti, ty	thi, thy	di,dy	k	kh	g	q	
			c	ch	dz	cr	chr	dzr								
(f)	(v)	s	z	sr		zr	shi, shy		zhi, zhy					qh	x	
	(w)		l						ji, jy							

隋語では、ほとんどの子音に「無声無気音」、「有気音」、「有声音」のペアがあります。

子音を発音するときに、まず、息の出る音が聞こえないのが「無気音」で、勢いよく息の出る音が聞こえるのが「有気音」です。そして、喉を振動させないと「無声音」、振動させると「有声音」となります。無声、有声の区別は日本語にもあり、これはわかりやすいと思われますので、無気、有気の区別に注意してください。

3.1 唇音

両唇を閉じる。f v w の3つは、外来語のみに現れる。

無声無気音	有気音	有声音	鼻音	無声音	有声音	接近音
p	ph	b	m	(f)	(v)	(w)

3.2 歯茎音

舌尖を上歯茎にあてる。

無声無気音	有気音	有声音	鼻音	無声音	有声音	接近音
t	th	d	n	s	z	l
c	ch	dz				

3.3 そり舌音

舌尖を立てて、上の歯茎にあてる。このとき、母音には自動的に半母音 r がつく。

無声無気音	有気音	有声音	鼻音	無声音	有声音
tr	thr	dr	nr	sr	zr
cr	chr	dzr			

3.4 硬口蓋音

舌の面を上顎にあてる。このとき、母音は自動的に i または y から始まる。

無声無気音	有気音	有声音	鼻音	無声音	有声音	接近音
ti, ty	thi, thy	di, dy	ni, ny	shi, shy	zhi, zhy	ji, jy

3.5 軟口蓋音

舌の根元を上顎にあてる。（ŋ の大文字は N とありますがどちらでも構いません）

無声無気音	有気音	有声音	鼻音
k	kh	g	ŋ

3.6 声門音

声門を閉じる。

無声無気音	有気音	有声音
q	qh	x

4. 例外

子音のうち、t th d n の4つは、直後に i または y がくるとき、自動的に硬口蓋音となりますので、歯茎音として発音しません。

直後に i または y がきてかつ歯茎音のままで発音するときは、その i または y のう上にトレマ (¨) をつけて i̇ や ẏ の様に入ります。ここにさらに声調符号をつけるときは、記号を変化させて上声はハーチェク (ˇ) , 去声はサーカムフレックス (ˆ) で表します (平声は無変化) 。

ただし、この例外は固有語では1単語「dī (地面, 大地)」にしかありません。

練習

次の発音を、区別に注意しながら練習してみましょう。

qu ⇔ qú ⇔ qù

qyi ⇔ qýi ⇔ qỳi

qə ⇔ qé ⇔ qè

qa ⇔ qra

qia ⇔ qria ⇔ qya ⇔ qrya

qyui ⇔ qyi ⇔ qryi

qia ⇔ jia

ka ⇔ kha

ca ⇔ cha

ta ⇔ tra

sia ⇔ sra ⇔ sria ⇔ shia

cia ⇔ cra ⇔ cria ⇔ tia ⇔ chia ⇔ chra ⇔ chria ⇔ thia

zia ⇔ zra ⇔ zria ⇔ zhia ⇔ dzia ⇔ dzra ⇔ dzria ⇔ dia

ga ⇔ xa

第一課 こんにちは！

Drieu Xraŋ: Chiénmyùn, kyun dié Qabe kyun pyú?

Qabe Nána: Dié, ɲá dié Qabe Nána. Kyun dié Drieu Xraŋ kuŋ pyú?

Drieu Xraŋ: Dié, ɲá dié Drieu Xraŋ.

Qabe Nána: Drieu Xraŋ kuŋ qháu!

Drieu Xraŋ: Kyun qháu!

朝衡：すみません，あなたは阿倍さんですか？

阿倍：はい，私は阿倍奈々です。あなたは朝衡さんですか？

朝衡：はい，私は朝衡です。

阿倍：朝衡さん，こんにちは！

朝衡：こんにちは！

Drieu Xraŋ 朝衡（姓名）
chiénmyùn お尋ねします
kyun あなた（二人称）
dié である
Qabe 阿倍（姓）
kyunさん（敬称）

pyú? か？（句末疑問詞）
Nána 奈々（名）
ɲá わたし（一人称）
kuŋさん（敬称）
qháu よい（二人称のあとなどにつけると挨拶表現）

人称詞

一人称	二人称	三人称	疑問称
ŋá など	kyun など	qi	dyi
わたし	あなた	かれ	だれ

隋語の一人称と二人称は、日本語の様に複数存在します。これらは、相手や自分の立場などの状況によって使い分けられます。特に二人称については、様々なものが頻繁に登場しますので、代表的なものをいくつか覚えておきましょう。

相手と自分の関係によって使い分けられる二人称としては、以下の3つが一般的です。

- ・ kyun：あなた

丁寧な表現として使います。初対面の人や、特段に親しくない人には kyun を使しましょう。

- ・ khrienj：あなた、きみ、おまえ

親愛のこもった表現として使います。友人などの親しい人には khrienj を使しましょう。

- ・ nió：おまえ、きさま

尊大な表現として使います。相手にしっかりと言い聞かせるときなどには nió を使しましょう。

他にも、相手の立場によって使われる敬称表現としての二人称が存在します。これには、高官に就いている人へ使う「kuŋ」や、学のある人へ使う「srienj」などがあります。また、「nió」など一部の二人称を除いて、これらの言葉を相手の名前のあとに続けると、日本語の「……さん」や「……先生」などに相当する敬称となります。

人称詞の複数形は、「ŋátái」「kyuntái」「qitái」の様に、後ろへ「tái」をつけて表します。

「dié」を使った文

A + “dié” + B 「A は B です」

A + “pyuidié” + B 「A は B ではありません」

「A は B です」は、繋詞の「dié（である）」を使って「A + “dié” + B」で表されます。

また、「dié」の否定形は「pyuidié（ではない）」で表します。

Dá dié xyódryùnín. 私は宇宙人です。（xyódryùnín：宇宙人）

Dá pyuidié Maqékawa. 私は前河ではありません。（Maqékawa：前河（姓））

「pyú」を使った疑問文

「はい、いいえ」で答えることのできる「.....ですか？」や「.....しますか？」などの疑問文は、通常の肯定文の末尾に「pyú」をつけて表します。

逆に「はい、いいえ」で答えることのできない、つまり「.....は誰ですか？」や「.....はどこですか？」などの疑問文は、肯定文の尋ねる部分に「dyi」や「xathiò（どこ）」などの疑問詞をいれます。

練習

次の日本語文を、隋訳してみましょう。

1. 私はソ連人民です。（ソ連：Solien, 人民：Ninmin）
2. 貴様たちはソ連人民ではない。
3. 彼はソ連人民ですか？

次の隋語文を、和訳してみましょう。

1. Chiénmyùn, kyun dié Mau Tyóziek pyú? (Mau Tyóziek：毛主席)
2. Qi pyuidié Mau Tyóziek.
3. Nátéi dié Nitpúnnin. (Nitpúnnin：日本人 cf. Nitpún（日本）+nin（人）)

第二課 あれは窓です

Drieu Xraŋ: Chié dènnáu kyùì pyú?

Qabe Nána: Dié. Chié díím kyùì.

Drieu Xraŋ: Prié nié?

Qabe Nána: Prié dènnáu pyut kyùì.

Drieu Xraŋ: Niéqheŋ, prié xanio?

Qabe Nána: Prié pyuidié dènnáu, dié chroŋciá.

朝衡： このパソコンは高いですか？

阿倍： はい。これは高いです。

朝衡： あれは？

阿倍： あのパソコンは安いです。

朝衡： それでは、あれはどうですか？

阿倍： あれはパソコンではなく窓です。

chié これ（は）、この
dènnáu パソコン、コンピュータ
kyùì （値段が）高い
dié はい
chiétéi これ
priétéi あれ

dím とても
prié あれ（は）、あの
niéqheŋ その様な、それならば
xanio どうですか
chroŋciá 窓

指示代名詞

近称	遠称	疑問称	
chié	prié	xa	xatái
これ、この	あれ、あの	どれ、どの	なに、なんの

これらの代名詞は、他の名詞の前にきた場合は「この」や「あの」といった形容詞となります。複数形は人称代名詞と同様に後ろへ「tái」をつけます。（疑問称に複数形はありません。）

Chié dié shio. これは本です。（shio：本、書籍）

Priétái shio díim qháu. あれらの本は良い。

Chié dié xatái? これはなんですか？

形容詞述語文

形容詞が述語となる「（主語）は（形容詞）だ。」という形容詞述語文は

（主語）＋（程度副詞）＋（形容詞）。

と表します。

このとき、主語と形容詞の間には、（主語）がどれくらい（形容詞）なのかを示す「程度副詞」が入ります。特に程度には言及せず（形容詞）だということを示すときには程度副詞「díim（とても）」を使います。

「（主語）は（形容詞）ですか？」という疑問形には、文末に「pyú」を置きます。このときは、「díim」を置く必要はありません。

「（主語）は（形容詞）ではない。」という否定形には、程度副詞の位置に“pyut”を置きます。ただし、隋語で「対義語が存在する形容詞」を否定した場合、その対義語の意味になるということに注意しなければなりません。

Nàició díim qháu. 林檎は良い。（nàició：林檎）

Chronció pyut qháu. 窓は悪い。（「良くはない」ではないことに注意！）

Khiéna qháu pyú? ペンギンは良いですか？（khiéna：ペンギン）

「nié」を使った疑問文

どのような事柄について訪ねているかが自明なとき、単純に「（名詞）nié?」とすることで「（名詞）は（どうですか）?」の様な疑問文を作ることができます。

Solien tin gian. Mryikuək nié? ソ連は強い。アメリカは？（gian：強い、Mryikuək：アメリカ）

Dá pyuidié xroksrien. Kyun nié? 私は学生ではありません。あなたは？（xroksrien：学生）

「xanio」を使った疑問文

形容詞の位置に「xanio」を入れると、「……がどうですか？」の様に、特定の形容詞を使わずに状態や性質について質問することができます。このとき「dím」を置く必要はなく、また「xanio」自体が疑問詞なので文末に「pyú」もつけません。

練習

次の言葉を使って、文を作ってみましょう。

代名詞：chié, prié, ḡá, kyun, qi (+tái)

国名：Nitpún, Mrýikuək, Tryuṅkuək (中国), Xankuək (韓国) (+nin)

人名：Mau Tyóziek, Ciánj Cúnthòṅ (蔣大統領), Krim Ciànkyun (金將軍)
Brak Sensrieṅ (白先生), Liə Shièimin (李世民)

名詞：dènnáu, nàiciá, chroṅciá, shio, tiènthia (戦車), xroksrieṅ (学生)
dènqriéṅ (映画), duṅnintiə (同人誌), dàixrok (大学)

繋詞：dié, pyuidié

副詞：dím, thài (非常に), tin (実に), pyut, pyut thài (あまり……ない)

形容詞：qháu, qak (悪い)

kyùi, liem (良い意味で安い), dzièn (悪い意味で安い)

dài (大きい), siéu (小さい)

khuài (速い), mràn (遅い)

xú (厚い), bak (薄い)

第三課 三笠の山

Drieu Xraŋ: Chié dié khrieŋ téi pyú?

Qabe Nána: Pyú, prié dié ɳá bəŋxyú tiə shiəchrek.

Drieu Xraŋ: Khrieŋ cak shiəka pyú?

Qabe Nána: Pyut cak, dàndié ɳá triedáu kuŋ cak téi shiəka.
“Gieu shyú myàŋ tuŋ then, ...”

Drieu Xraŋ: “Zhin drie Nàliaŋ Pen.”
Dié, giə dié ɳá téi.

朝衡： これはあなたのですか？

阿倍： いいえ、それは私の友達のポエム帳です。

朝衡： あなたは詩を作りますか？

阿倍： いいえ、でもあなたの作った詩は知ってますよ。
「天の原……」

朝衡： 「振り放け見れば春日なる。」
はい、それは私のです。

téi ……の（後述）

pyú いいえ

bəŋxyú 友人

shiəchrek ポエム帳，作詩ノート

cak 作る

shiəka （全般的な）詩

dàndié しかし，でも

triedáu （少しは）知っている

giə それは

* “Gieu shyú myàŋ tuŋ then, Zhin drie Nàliaŋ pen. (Samliŋ Srentéŋ diàŋ, Siáŋ xyù xáunŋyot xryen.)”
五言絶句（漢文）。「翹首望東天，神馳奈良邊。（三笠山頂上，想又皓月圓。）」

動詞述語文

動詞または動詞と目的語が述語となる「（主語）が（目的語）を（動詞）する。」という動詞述語文は

（主語）＋（動詞）＋（目的語）。

と表します。

「（主語）が（目的語）を（動詞）しない。」といった否定形の場合は、動詞の前に「pyut」をつけます。

Dá khàn shio.	私は本を読む。（khàn：読む，見る）
Qi pyut khiò xroxràu.	彼は学校へ行かない。（khiò：行く）
Khrieg zhiæk chié nàiciá?	君はこの林檎を食べますか？（zhiæk：食べる）

呼応代名詞

「giə」と「tiə」は、少々特殊な代名詞です。これらは物理的に「物を指差す」イメージでの「あれ」や「これ」ではありません。前の会話内容などを踏まえて、脳内にある物を指し様なイメージの代名詞です。日本語では通常「それ」と表現しますが、「あれってさあ〜……」や「これがねえ……」などと他の代名詞を使うこともあります。

「giə」は主語「それが」，または連体修飾語「その」として使い，「tiə」は目的語「それを」として使います。

Chronciá pyut qháu, nà qhryé tiə. 窓は悪いので，私はこれを破壊する。（qhryé：壊す）

Prié dié thiəŋ Pràushiæk téi tiènthia, giə criækmièn crialŋkrap dím bak.
あれはパンターという戦車で，その側面装甲はとても薄いです。

（thiəŋ：……という名前である，Pràushiæk：パンター，criækmièn：側面，crialŋkrap：装甲）

構造助詞

「tiə」と「téi」2つの構造助詞は，ともに日本語で「……の」と，現代中国語で「……的」と表されますが，隋語においては使い分けがあります。

・「tiə」：

「（名詞）の（名詞）」の様に，所属、所有を表すのに使います。

・「téi」：

「（名詞、形容詞）であるもの，（動詞）するもの」の様に，また「（形容詞）である（名詞），（動詞）する（名詞）」の様に使います。

Chié dié Krim Ciànkyun tiə dènqriēŋ. これは金将軍の映画です。

Dá dié dián dàixrok téi xroksriēŋ. 私は大学へ通う学生です。（dián：通う）

数詞

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
qit	nì	sam	sì	ŋó	lyuk	chit	pret	kyú	dip
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
dipqit	dipnì	dipsam	dipsì	dipŋó	diplyuk	dipchit	dippret	dipkyú	nìdip
21	...	30	40	50	60	70	80	90	100
nìdipqit	...	samdip	sìdip	ŋódip	lyukdip	chitdip	pretdip	kyúdip	prak
101		110			111		123		
prak qit		prak dip			prak dipqit		prak nìdipsam		
200		256			801		1000		
nìprak		nìprak ŋódiplyuk			pretprak qit		chen		
1001		1024			7287		10000		
chen qit		chen nìdipsì			chitchen nìprak pretdipchit		qit myòn		

(編輯メモ：この解説は第5課以降へ移す)

第四課 《メトタン》はいいぞ

Qabe Nána: Láu Drieu, kuŋ dzəŋ khàn dènqrién *Shièunrió jió Tiènthia* pyú?

Drieu Xraŋ: Myùidzəŋ khàn. Giə dènqrién chyò pyú?

Qabe Nána: *Shièunrió jió Tiènthia* dím qháu. Đá jiek dzyoŋ dzennit myùi khàn tiə, mrieŋnit kuŋ jió ɣá pyut khiò khàn tiə pyú?

Drieu Xraŋ: Qháu!

阿倍： 朝さん，映画《メートヒエン・ウント・タンク》を観たことはありますか？

朝衡： ないですが，その映画は面白いのですか？

阿倍： 《メトタン》はいいぞ。私も一昨日から見ていないので，明日一緒に観に行きませんか？

朝衡： いいですよ！

láuさん

dzəŋしたことがある

dènqrién 映画

shièunrió 少女

jióと，一緒に

giə それ，その

chyò 面白い

tin とても

qháu よい

jiekも，また

dzyoŋから

sennit おととい

myùiしていない

mrieŋnit あした

khiò 行く

tiə それを

経験副詞

「（今までに）……したことがある。」という経験は、動詞の前に副詞「dzəŋ」をつけて表します。これに対して「……したことがない。」という経験の否定は「myùidzəŋ」をつけます。

Dá dzəŋ dián Tujkrieŋ Dàixrok. 私は東京大学へ通ったことがある。（Tujkrieŋ：東京）

Láu Drieu pyùidzəŋ zhiək mènprau. 朝さんはパンを食べたことがない。（mènprau：パン）

完了助詞

「……を……した」という完了は、動作の対象である**目的語の後**に助詞「jió」をつけて表します。「（まだ）……していない」という完了の否定は、**動詞の前に**副詞「myùì」をつけます。

また、「……になった」の様な状況や事態の変化は、文末に「xió」をつけて表します。
（これ難しいのでどうしようか試行中）

時間表現

「明日」や「去年」の様な時間を表す言葉は、動詞の前に置いて表します。このとき、主語とはどちらが前でも構いません。

朝	午前	昼	午後	夜
cáudin	ηódzen	tièŋŋó	ηóxú	jiàmyón
一昨日	昨日	今日	明日	明後日
dzennit	dzaknit	krimnit	mrieŋnit	xúnit
一昨年	去年	今年	来年	再来年
dzennen	khiònen	krimnen	lèinen	xúnen

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
nitjièu	nyotjièu	qhuájièu	shýjièu	mukjièu	krimjièu	thójièu

Krimnit ná khàn dèŋqrieŋ. 今日わたしは映画を見る。

Qi nyotjièu khiò Solien xió. 彼は月曜日にソ連へ行った。

参考文献

以下、字体および仮名遣いは全て現代日本に於けるものへ直した。

《広韻》、《集韻》、《王韻》、《宋本玉篇》、《篆隸万象名義》、《經典積文》、《辭源》、《漢語大詞典》等の諸辞書類

宗近倫子《〈世説新語〉における兄弟間の呼称小論》

三根谷徹《中古漢語の韻母の体系》

松江崇《〈六度集經〉〈仏説義足經〉に於ける人称代詞の複数形式》

《古漢語に於ける禪母系疑問代詞目的語の語順変化》

辻星児《「不」の字音について》

長尾光之《疑問詞「何所」「所」について》（《漢訳仏典にみられる口語の研究》より）

長尾光之（訳）《徐丹〈中国語の「在」と「着（著）」〉》

陳怡君《漢語指示代名詞の歴史的変遷》

平山久雄《唐代音韻史に於ける輕唇音化の問題》

北川修一《中古漢語の不字句》

牛島徳次《中古漢語の人称と称呼》

《中古漢語の質疑文》

帥志嵩《中古漢語“完成”語義範疇的表達体系》

《中古漢語“完成”標記的衍生過程》

魏培泉《東漢魏晉南北朝在語法史上的地位》

《古漢語時体標記的語序類型与演變》

《上古漢語到中古漢語語法的重要發展》

《中古漢語時期漢文仏典的比擬式》

秋山淳（訳）《沈家煊〈有界・無界〉》

于飛《中国語構造助詞「的」の歴史的変遷》

沼本克明《重紐論と日本漢音》

野原将揮《上古中国語音韻体系に於ける T-type / L-type 声母について》

《上古漢語書母に間する基礎的研究》

宮本徹《上古漢語の *t, *l について》（ママ）

遠藤光暁《切韻の韻序について》

坂井裕子《中古漢語の是非疑問文》

守屋宏則《中国語の反義並列型二音節語の構造》

汪維輝《唐宋類書好改前代口語》

王育徳《福建語に於ける‘著’の語法について》

（不明）《中古漢語重紐、輕唇與普通三等三者交互關係》

志村良治《中古漢語の語法と語彙》（《中国文化叢書》より）

William H. Baxter & Laurent Sagart *Old Chinese: A New Reconstruction*

喜多山幸子《ニューエクスプレス中国語》

追記中……